

## 平成27年度「情報通信月間」東北総合通信局長表彰

## 【個人】

(敬称略)

被表彰者	主な功績
すえまつ のりはる 末松 憲治 東北大学電気通信研究所教授	災害時における緊急重要通信や安否確認などに活用が期待される「簡易な操作で設定が可能な可搬型小型地球局」を開発するなど、災害に強い情報通信技術の確立に多大な貢献をされました。

## 【団体】

(敬称略:五十音順)

被表彰団体	主な功績
岩手県野田村 (村長 小田 祐士)	光ブロードバンド環境を活用したIP告知端末による情報配信サービス「のんちゃんネット」を村内全世帯に整備し、災害対応の強化を図るとともに、地域に必要な生活支援情報を提供するなど、地域の情報化に先進的に取り組まれました。
株式会社ニューメディア (代表取締役社長 酒井 彰)	インターネットの安心・安全な利用に向け、保護者や児童生徒等を対象として各地で行う講座(e-ネットキャラバン)において、講師を制度実施当初の平成18年度から継続的に多数派遣するなど、ICTリテラシーの向上に多大な貢献をされました。
福島県立いわき海星高等学校 (学校長 澤 尻 京二)	公立の高等学校として全国で初めて工事担任者の養成課程を実施し、学校教育を通じ情報通信ネットワークの資格取得の促進に取り組み、多くの技術者を輩出するなど、東北地域の情報通信の普及に多大な貢献をされました。
宮城県色麻町 (町長 伊藤 拓哉)	自治体としては全国で初めて地域WiMAXを活用した無線ネットワークを構築して行政や防災に係る情報を一元管理し、各世帯に設置されているIP告知端末のほか携帯電話やスマートフォン等の多様なメディアを通じて住民に配信するなど、地域の情報化に先進的に取り組まれました。

## 平成27年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」東北総合通信局長表彰

(敬称略)

被表彰校	主な功績
青森県立百石高等学校 (校長 荒川 由美子)	携帯電話やスマートフォンの安心・安全な啓発活動として、生徒会が主体となり、コミュニケーションアプリを正しく使用する標語を全校で募集し、文化祭時に校内で表彰するなど、情報通信の安心・安全な利用に関わる顕著な活動をされるとともに、標語作りにおいて優秀な作品を創作されました。  標語 「その言葉 相手の顔見て 言えますか？」

## ○「情報通信の安心安全な利用のための標語」表彰

初心者を含む情報通信利用者が情報通信を安心・安全に利用するためのルールやマナー、情報セキュリティに関する意識や知識の重要性に気づき、考えるきっかけとすることを目的として、応募された標語の中から、東北管内の最優秀作品を東北総合通信局長が表彰するものです。